

平成22年度 全国特別支援学級設置学校長協会

第47回全国研究協議会高知大会

◆ 大会主題 ◆

一人一人の教育的ニーズに応え、
豊かに生きる力を育む特別支援教育の推進



期 日 平成22年 8 月26日(木)・ 27日(金)
会 場 高新R K Cホール・高知会館・高知共済会館
主 催 全国特別支援学級設置学校長協会
四国地区特別支援学級設置学校長協会
高知県特別支援学級設置学校長協会

目 次

ごあいさつ	1
大会実施要綱	3
研究協議日程	4
開 会 行 事	5
行 政 説 明	6
児 童 発 表	8
パネルディスカッション	9
研究協議（分科会）	11
全 体 会（分科会報告）	24
全 体 講 評	26
閉 会 行 事	28
資 料	29

- 表紙写真 坂本龍馬像（高知市・桂浜）
- 裏表紙写真 高知城（高知市）

ごあいさつ



全国特別支援学級設置学校長協会

会長 河本 眞 一

平成 22 年度全国特別支援学級設置学校長協会・第 47 回「全国研究協議会<高知県大会>」が、この高知市で開催されますこと、心よりお慶びを申し上げます。

本大会の準備にあたられました、高知県特別支援学級設置学校長協会会長、大会実行委員長岡則明様をはじめ、高知県特別支援学級設置学校長協会の皆様方のご尽力に対し心より敬意を表します。

また、本大会の開催にあたり、特段のご配慮をいただきました高知県教育委員会、高知県市町村教育委員会連合会、高知市教育委員会をはじめ、多くの関係機関の皆様深く感謝申し上げます。

さて、学校教育法の一部改正が施行され、新たな理念で特別支援教育がスタートして今年度は 4 年目に当たります。これまでに障害のある児童生徒一人一人のニーズに応える個別の教育支援計画や個別の指導計画が整備され、一人一人の児童生徒の実態に即した教育内容が編成されるなど、質・実ともに充実した教育活動が実践・展開されています。

しかし、特別支援学級に在籍する児童生徒数が平成 10 年度では 67,974 名でしたが、平成 21 年度には 135,166 名と約 2 倍に増加し、それに伴う学級数も 23,902 学級が 42,067 学級と急激な増加は、新たな課題を生むこととなりました。その一つに、特別支援学級担当教員のこれまでの経験や教員としての経験年数、専門性や指導力、さらには教師としての深い人間性等にかかわる問題。また、その教員を日常的に指導育成していく校長のリーダーシップの発揮は、喫緊の課題となってきています。

本大会の主題である『一人一人の教育的ニーズに応え、豊かに生きる力を育む特別支援教育の推進』は、まさに求められる教育の本質的な課題であり、今大会での特別支援教育を中心とした授業改善を視点にした提案は、障害のある児童生徒の生きる力の育成を裏打ちするものであり、まさに時機を得た研究であると考えます。

平成 22 年 6 月、「障害者制度推進会議」が第一次意見（素案）として「障害者制度改革の推進のための基本的な方向」としてまとめたものが閣議決定されました。今後、本格的に細部にわたって検討・論議が展開されることが予想されます。中でも、特別支援学級に関する規定は、分離に当たる差別であり、インクルーシブ教育に反するのか。障害のある児童生徒の地域社会にある学校への学籍の一元化は、真に児童生徒の自立と社会参加に結びつくのか。就学先の決定は、如何にして本人・保護者の意見を尊重して選択権を保障していけば良いのか。等々は、特別支援教育の根幹にかかわる内容であり、全国特別支援学級設置学校長協会といたしましても組織として意志を統一して、全連小、全日中、全特長、全高長と連携しながら意見を表明していきたいと考えているところです。そのためには、私たち設置学校長協会の校長は、現在の教育現場で改めて校長としてのリーダーシップを発揮し、着実に特別支援教育の推進役として職責を果たすことが重要であると考えます。

今大会の高知県大会が実り多き研究協議会となり、その成果が自校の課題解決の糸口となるとともに、都道府県各地域への特別支援教育の発展へと積み上げられることを祈念し、大会のご挨拶といたします。

ごあいさつ



高知県特別支援学級設置学校長協会

会長 岡 則 明

全国特別支援学級設置学校長協会第47回全国研究協議会高知大会の開催にあたり、全国各地で特別支援教育の充実・発展のためにご尽力されている皆様のご来高を心より歓迎いたします。また、公私ともに多用の中、文部科学省中等教育局特別支援教育課課長千原由幸様、高知県教育委員会教育長中澤卓史様、高知市教育委員会教育長松原和廣様をはじめ多くの来賓の皆様の臨席を賜りましたことに改めて感謝申し上げます。

2010年全国特別支援学級設置学校長協会全国研究協議会を高知で開催するにあたり、4年前の四国ブロック会で、学校長として今の課題は何か、全国大会で何を提案できるか話し合いました。その時、いずれの県においても、通常学級における授業改善こそが課題であるとの意見が多く出されました。そこで、本大会では、特別支援学級の取り組みはもちろん、「特別支援教育の視点からの通常の学級における授業改善」を提案することに致しました。

また、本大会のパネルディスカッションのテーマも、「特別支援教育の視点からの授業改善」とし、パネリストは、学校現場だけでなく、ジャーナリスト・臨床心理士の皆様のご意見をお伺いすることで、明日からの「授業改善」にいかしていき実践につなげて参りたいと考えています。

さて、インクルージョンという世界的な流れの中で、平成18年12月、国連総会本会議において「障害者権利条約」が採択され、平成22年6月には、障がい者制度改革推進会議が「障がい者制度改革の推進のための基本的な方向について」提案されました。

目まぐるしく変化する時代の中、私たち学校長は、すべての子どもたちに心豊かな学校生活を送らせ、自立する力を育成できるような学校経営を推進し、常に新しい情報を集めながらも、時代に流されず、目の前にいる児童・生徒のニーズに応えることが大切であると考えます。そして、障害の有無に関わらず、一人一人の教育ニーズに応じて、共に学ぶ教育環境を整備し、将来の自立と社会参加の基盤となる「生きる力」を培うための支援を共に充実させて参りましょう。

今年は、土佐の生んだ坂本龍馬が注目されています。龍馬は、日本歴史上の人物の中では一番人気だそうです。その人気の秘密は、龍馬の広い視野と先見性ととも、龍馬がすべての日本人の幸せを願って、世の中を動かそうとした「優しさ」に共感する人が多いのではないのでしょうか。

本大会が、龍馬の志を引き継ぎ、すべての子どもたち、そして、世の中すべての人が幸せになるための「特別支援教育」の充実・発展につながる提言となるようにと願っております。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、多くのご支援、ご協力をいただきました関係各位の皆様方に深く感謝申し上げます。

大会実施要綱

- ◇ 大会主題 「一人一人の教育的ニーズに応え、
豊かに生きる力を育む特別支援教育の推進」
- ◇ 主 催 全国特別支援学級設置学校長協会 四国地区特別支援学級設置学校長協会
高知県特別支援学級設置学校長協会
- ◇ 後 援 文部科学省 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国特別支援学校長会
全国特別支援教育推進連盟 全日本特別支援教育研究連盟 全日本手をつなぐ育成会
四国地区特別支援学校長会 高知県教育委員会 高知縣市町村教育委員会連合会
高知市教育委員会 高知県小中学校長会 高知県特別支援学校長会
高知県特別支援教育研究会 高知県手をつなぐ育成会 土佐教育研究会
高知県小中学校PTA連合会 高知市立小中特別支援学校長会 高知県教育公務員弘済会

◇ 期 日 平成22年 8月26日(木)～27日(金)

- ◇ 会 場
- 高新RKCホール
高知市本町3-2-15 TEL 088-825-4321
 - 高知会館
高知市本町5-6-42 TEL 088-823-7123
 - 高知共済会館
高知市本町5-3-20 TEL 088-823-3211

◇ 大会日程

【1日目 8月26日(木)】

9:00～11:30	全国副会長会
------------	--------

11:40～12:30	受 付
12:30～13:10	開会行事
13:10～14:10	行政説明
14:10～14:20	児童発表
14:30～16:40	パネルディスカッション
17:10～18:10	全国理事会

18:30～20:30	レセプション
-------------	--------

【2日目 8月27日(金)】

9:00～	受 付
9:20～9:50	ブロック会議

9:30～10:00	分科会受付
10:00～12:30	第1分科会
	第2分科会
	第3分科会
12:30～13:30	昼食・移動
13:40～14:10	全体会
14:10～14:50	指導講評
14:50～15:10	閉会行事

研究協議日程

◎ 1日目 8月26日(木)

1 受 付	11:40 ~ 12:30	高新RKCホール
2 開会行事	12:30 ~ 13:10	高新RKCホール
(1) 開式のことば		
(2) 国歌斉唱		
(3) あいさつ		
(4) 来賓祝辞		
(5) 来賓紹介並びに祝電披露		
(6) 感謝状贈呈		
(7) 閉式のことば		
3 行政説明	13:10 ~ 14:10	高新RKCホール
4 児童発表	14:10 ~ 14:20	高新RKCホール
5 パネルディスカッション	14:30 ~ 16:40	高新RKCホール
6 全国理事会	17:10 ~ 18:10	高知会館 飛鳥
7 レセプション(懇親会)	18:30 ~ 20:30	高知会館 白鳳

◎ 2日目 8月27日(金)

1 ブロック会議, 顧問・参与の会	9:20 ~ 9:50 (受付9:00~)	高知会館
2 分科会受付	9:30 ~ 10:00	各分科会会場
3 研究協議(分科会)	10:00 ~ 12:30	
第1分科会		高知会館 白鳳
テーマ「特別支援教育を充実させるための関係機関との連携」		
第2分科会		高知会館 飛鳥
テーマ「個々のニーズに応じた特別支援教育の充実」		
第3分科会		高知共済会館 桜
テーマ「特別支援教育の視点からの通常の学級における授業改善」		
4 全体会	13:40 ~ 14:10	高知会館 白鳳
5 全体講評	14:10 ~ 14:50	高知会館 白鳳
6 閉会行事	14:50 ~ 15:10	高知会館 白鳳
(1) 開式のことば		
(2) あいさつ		
(3) 大会宣言		
(4) 次期開催地(長崎県)代表あいさつ		
(5) 閉式のことば		

開 会 行 事

8月26日(木) 12:30~13:10

高新RKCホール

1 開式のことば

第47回全国研究協議会高知大会実行副委員長 濱 田 有 一

2 国 歌 斉 唱

3 あ い さ つ

全国特別支援学級設置学校長協会会長 河 本 眞 一

第47回全国研究協議会高知大会実行委員長 岡 則 明

4 来 賓 祝 辞

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課課長 千 原 由 幸 様

高 知 県 教 育 委 員 会 教 育 長 中 澤 卓 史 様

高 知 市 教 育 委 員 会 教 育 長 松 原 和 廣 様

5 来賓紹介並びに祝電披露

第47回全国研究協議会高知大会実行副委員長 田 中 紀 子

6 感 謝 状 贈 呈

7 閉式のことば

第47回全国研究協議会高知大会実行副委員長 濱 田 有 一

児童発表

8月26日(木) 14:10~14:20

高新RKCホール

今年の夏も「き・ら・り」で思いっきり踊るよ！

高知市よさこいチーム「きらり」実行委員会

日本各地にはたくさんのお祭りがありますが、参加することは健常者であってもなかなかできるものではありません。ましてや、障がいのある子どもたちにとってお祭りに参加すること自体が無理なところがあります。しかし、高知県のよさこい祭りはその自由な発想から、老若男女はもとより、障がいの有無を問わないという他県に誇れる祭りです。

よさこいチーム「き・ら・り」は、よさこい祭りへの参加が、今年で連続出場8回目になります。初めの2回は高知市内の特別支援学校・特別支援学級の教員が合同チームを作り参加してきました。しかし、その後、行政からの補助金が打ち切りとなり、今後の参加をどうしていくかといった話し合いがもたれました。その際、保護者から「このまま中止にするのではなく、子どもたちのためにも自分たちで力を合わせてよさこい祭りへの参加を続けたい。」という意見が出され、3回目からは、保護者が中心になって実行委員会を立ち上げ、市内の学校や関係機関からの募金をお願いしながら、継続して参加していくことになりました。

よさこい祭りに参加することは、真のバリアフリーを考えるとともに、障がいのある子どもの社会参加の一歩にもなると思います。また、よさこい祭りでは、それぞれに障がいや学校、環境が違ってもしっかりと精一杯声を張り上げて踊ることができ、踊りを通じていろいろな人、友だちと交流し成長していく子どもの貴重な体験の一つになっています。

本年度も、「自分たちもよさこい祭りに出て思いっきり踊りたい！」という特別支援学校・学級の子どもの願いを実現し、笑顔いっぱいよさこい祭りを楽しめるよう「笑顔」をテーマとしてがんばっています。



パネルディスカッション

8月26日(木) 14:30~16:40

高新RKCホール

テーマ 「特別支援教育の視点からの授業改善」

コーディネーター

岡山大学大学院

教授 佐藤 暁 様

パネリスト

高知新聞社社会部

記者 塚地 和久 様

高知県教育委員会スクールカウンセラー

臨床心理士 濱川 博子 様

徳島市加茂名中学校

副校長 木津 実穂 様

高知県教育委員会中部教育事務所

企画監 大黒 由美 様

土佐市立宇佐小学校

校長 吉本 哲男

研究協議（分科会）

8月27日（金） 10:00~12:30

第1分科会 テーマ「特別支援教育を充実させるための関係機関との連携」			
高知会館 白鳳			
発表	司会	記録	講評
① 徳島市 南部中学校 校長 服部 英昭	高知市立 江ノ口小学校 校長 西川 淳一	高知市立 追手前小学校 校長 前田 志郎	独立行政法人国立特別支援 教育総合研究所発達障害 教育情報センター総括研究員 梅田 真理様
② 高知市立 三里小学校 校長 川崎 二三雄		高知市立 朝倉第二小学校 校長 別當 尚史	
第2分科会 テーマ「個々のニーズに応じた特別支援教育の充実」			
高知会館 飛鳥			
発表	司会	記録	講評
① 新居浜市立 浮島小学校 校長 石川 直子	香南市立 吉川小学校 校長 藤本 昌司	安芸市立 赤野小学校 校長 久保 博行	高知県教育委員会 中部教育事務所企画監 大黒 由美様
② 安芸市立 井ノ口小学校 校長 信崎 真理子		安芸市立 穴内小学校 校長 武内 典男	
第3分科会 テーマ「特別支援教育の視点からの通常の学級における授業改善」			
高知共済会館 桜			
発表	司会	記録	講評
① 高松市立 川添小学校 校長 六車 健	日高村立 日下小学校 校長 目代 雄一	土佐市立 蓮池小学校 校長 長岡 幹泰	岡山大学大学院 教授 佐藤 暁様
② 土佐市立 宇佐小学校 校長 吉本 哲男		須崎市立 南中学校 校長 古谷 智史	

第1分科会 テーマ 「特別支援教育を充実させるための関係機関との連携」
実践報告①

地方都市での関係機関との連携

徳島県徳島市南部中学校 校長 服部英昭

1 はじめに

ここ数年特別支援教育へのニーズの急激な増加により、徳島市（人口26万人）では医療・福祉分野などでの専門家の不足が深刻である。そのため校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターの設置などは100%であるが、その具体的な活動内容や支援方法、関係機関との連携などでは課題が多い。

2 徳島市の状況

徳島市	校数	特別支援学級 中 34 (103人) 小 84 (293人)						通級指導教室 小 8 中 1	
		知的	自閉・情緒	病弱	難聴	肢体不自由	弱視	小学校	中学校
公立中学校	16校	16	16	1	1	0	0	言語LD 自閉LD・ADHD LD自閉	LD・自閉
公立小学校	32校	27	41	3	3	9	1		
県内中学校	公立82校、私立2校、県立3校、国立1校								

※徳島市の中学校長会には市内にある県立1校 国立1校も入っており同一歩調で活動している。

3 徳島市の取り組み

(1) 就学前・小学校との連携

本市では中学校とその校区内の小学校などを1単位として、連絡会を開催している。さらに、20年12月から『相談ファイル～れん～』21年12月から『就学支援シート』を活用し、保育所から市立高校までの支援の連携を図っている。利用する子どもの数は年ごとに確実に増えている。

(2) 医療機関等との連携

市内には、大学病院1、県立・市立病院各1。隣市に赤十字病院がある。民間病院も多数あるが、いずれも子どもの発達障害や心の病を専門に診る病院や医師は限られている。そのため申し込みから実際の相談や診断までの待機時間が長く回数も少ないという問題がある。また、就学前や小学生への相談・支援の窓口比べて中学生への窓口は狭い。そこで、医師・看護師・大学教員・小中教員・療育機関の専門員・臨床心理士・言語聴覚士等で自主的に組織する「とくしま・子どもの心と発達の研究会」が研修会や情報交換を図り重要な役割をはたしている。

(3) 県の機関との連携

中学校の総相談件数のうち22%（小学校は7.1%）は児童相談所へ、県教委の総合教育センターへの相談は4～6%である。ニーズが急激に増えるに伴い、児童相談所の業務が増え、不登校の対応は総合教育センターへ、虐待や発達障害・警察に関わるケースは児童相談所へという振り分けの傾向がみられる。

(4) 県内4大学との連携

国立2大学、私立2大学がある。それぞれが相談支援部門を設けているが、総相談件数の1.6～

3%で、継続的な相談支援は少ない。

(5) 特別支援学校（8校）のセンター機能

小学校では総相談件数の14%、中学校では4%が相談支援を受けている。継続して支援を受けているケースもみられるが、中学校での利用は少ない。

(6) 県巡回相談員・市相談支援チーム、県専門家チームとの連携

県巡回相談員（市内小・中の現職教員各1名）・市相談支援チーム（医師、大学教授・療育施設の専門職員などで組織される）への相談支援は、小学校で総相談件数の22%、中学校で14%である。現場にとっては一番身近な存在であり、教員・子ども・保護者への支援・助言など大きな役割を果たしている。県専門家チームへの相談・支援は少ない。

4 本校の状況

本校は四国の最東端徳島市の南部に位置している。純農村地帯、新興住宅地、自動車会社のディーラーが並ぶ商業地域が混在しており、校区面積は徳島市の全面積の3分の1を占める。生徒数は602人、教職員数51名。他に特別支援教育支援員1名、スクールカウンセラー1名、学習支援ボランティア3名（大学生）が関わっている。通常学級17、知的障害学級1、自閉症・情緒障害学級1の計19学級の中規模校である。生徒は、全校児童20人から400人を超える6つの小学校から入学してくる。全校生の95%が自転車通学をしている。最も長距離生は片道9kmを通っている。

(1) 本校の取り組み

① 自己完結（自校完結・自校責任）の体制づくり

教職員は、相談や支援をどこに求めどのような連携を図っても、丸投げ的にならない・頼りきらないよう最後まで責任をもって対応するということを基本方針としている。

小学校へ中学校教員が授業見学、6小学校の六年生をグループに分けての綱引き大会、入学前保護者説明会、入学式後の保護者懇談会、入学前の小学校との連絡会、小学生の体験入学、保護者との直接面談、家庭訪問での情報収集。それらをもとに職員会議や学年会での共通理解。週1回の学年主任会・ミニケース会議の適宜開催・拡大ケース会議の開催など全体やチームで取り組んでいる。

② 点・線から面への支援

医師も臨床心理士もスクールカウンセラーも、生徒を「個」としてみて様々なアドバイスをしてくれる。担任や学級・学校では多くの場面では「集団」の中の一員としてみている。「個」（点）でみる場合と「個人との繋がり」（線）でみる場合と「集団」（面）の中の一員としてみる場合、状態像が違っている。それぞれの場面での情報交換・情報の共有は特に大切である。関係機関で診断・相談を受けている場合には、本人・保護者の了解を得て担当医師や担当者と直接面談するか、メール・電話などの方法で、可能な限りの情報交換を行っている。

③ 人材育成

教職員の研修会の開催はもちろん、保護者や医師などとの面談の際、必ず担任や関係職員に同席してもらい以後の相談が円滑に行えるように配慮している。また外部の学術講演会や研究会を紹介し教職員に参加を呼びかけている。その結果、会に参加するものが増えてきた。

5 おわりに

医師を含めて専門家の絶対数が少ないことから、少ない機会を有効に活用する必要がある。そこで校長とコーディネーターが関係機関と常時密接な関係をつくることで、教職員が気軽に相談できる体制をつくっている。支援や相談・助言を有効に生かして、自校で完結するという基本方針が教職員の意識に浸透しつつあり、支援が充実しつつあることを実感している。関係機関や専門家の絶対数は少ないが、学校側から積極的に関わることにより繋がりは強い。この繋がりの活用を大事にしたいと思っている。

第1分科会 テーマ 「特別支援教育を充実させるための関係機関との連携」

実践報告②

児童理解と支援を効果的に行うための関係機関との連携のあり方

高知県高知市立三里小学校 校長 川崎 二三雄

1 はじめに

特別支援教育において関係機関との連携は極めて重要である。特に、適切な児童理解と効果的な支援を行うには多面的なとらえ方や専門性が必要となってくる。そこで、児童理解と支援における関係機関との連携のあり方について考えてみたい。

2 本校の状況

本校は高知市の南東部に位置し、児童数332名、16学級（うち知的障害学級1，自閉症・情緒障害学級1，弱視学級1，病弱・身体虚弱学級1，特別支援学級計4）の学校である。5年前から特別支援教育を研究の柱に児童の学力向上と人間関係づくりをめざした取り組みをすすめている。研究主題は「主体的に取り組み、かかわり合い、学び合う力を育てる～特別支援教育を根底においた基礎学力の定着を目指して～」である。昨年度より国立特別支援教育総合研究所の研究協力校として助言、支援をいただいている。

3 本校の取り組み

(1) 支援体制と校内組織

- ① 校内委員会 … 月1回定期的に開催。
- ② コーディネーターチーム … コーディネーターと研究主任等。校内委員会の企画。
- ③ 支援会 … 随時開催。気になる児童に対する具体的な支援方法について検討する。

(2) 児童理解のための関係機関との連携

① 諸検査の実施

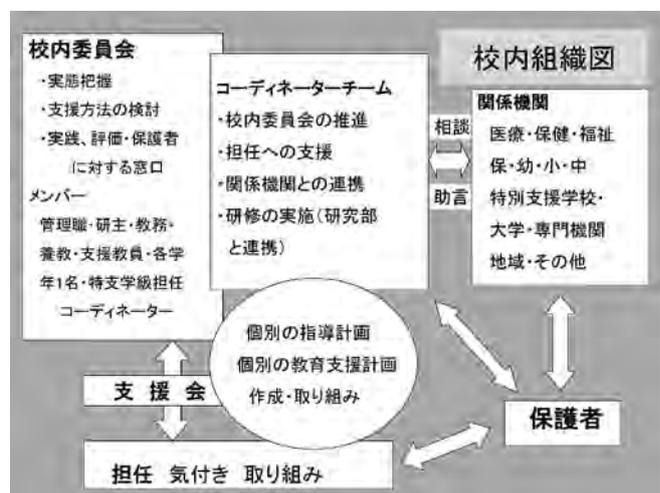
- ア 森田-愛媛式読み書き検査と図形検査
(第2～6学年で実施)

聴写（聞き取る力）、視写（書き写す力）、聞き取り（聞いて理解する力）、読み取り（読んで理解する力）の実態をみる。

- イ 特別な教育的配慮の必要な児童生徒に関するチェックシート（県教委）
学級担任が学習や生活面で気になる項目をチェックする。

- ウ Q-U楽しい学校生活を送るためのアンケート（高知市教育研究所）
市内全小中学校で実施。年間2回、プロット図校内研修で分析、協議。

- ② 講師による巡回指導…全学級の授業を巡回し、児童の特性や支援方法について助言をもらう。
- ③ 新入児観察…保幼小連絡会、就学時健診、一日入学



(3) 支援のための関係機関との連携

① 連携を取り入れた支援会

医師，言語聴覚士等に参加してもらい校内外で支援会を昨年度9回程度行う。

② 個別の指導計画

実態，諸検査結果，保護者の願い，長期目標，短期目標，手だて，効果的だった支援方法等

③ 国立特別支援教育総合研究所との連携～学級サポートプランの導入～

実態把握のためのチェックリスト→アセスメントシート票への整理→手だてリストを活用した支援

④ 関係機関からの講師による校内教職員研修

6年間で大学研究者9回，県内外の研究員・指導主事22回，医師1回，言語聴覚士2回，県外校長1回等講師として招聘

⑤ 加力指導，小集団学習における支援

ア 放課後学習ルーム … 4～6年対象，学生支援員・学習チューターによる支援

イ 小集団学習 … 記憶課題指導，漢字の読み書き指導，集中力・運筆トレーニング

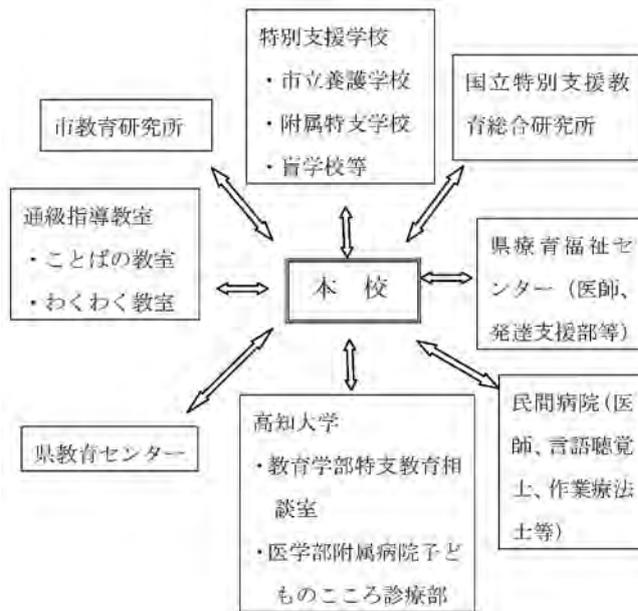
(4) 関係機関との連携の事例

① 自閉症・情緒学級在籍の児童A

入学当初は多人数の集団で学ぶ時に離席があったり，自分のやりたい課題をやり続けたりすることがあった。通常の学級で学ぶ教科と特別支援学級で学ぶ教科を毎年検討し，成長に合わせて変更していった。不安な感情が続く時はその都度主治医と連携をとって解決方法を相談した。担任が主治医や心理担当と会ったり，専門機関主催の研修会にも保護者と一緒に参加したりした。本児が専門機関のソーシャルクラブに参加し同年齢の仲間と学習した。落ち着いて学習ができ，年々通常の学級で過ごせる時間が増えていった。WISCの結果に伸びが見られた。

② 通常の学級に在籍した児童B

手先が不器用で定規を使ったり，漢字の書きが苦手であった。4年生頃から一斉指導での理解が困難になり，早退や欠席が増えた。民間病院に通院し，言語聴覚士，作業療法士の指導を受けていた。一日1時間算数の小集団指導を行い，1学年下の教材を中心に基本的な事柄を繰り返し学習した。百玉そろばんなどの具体物を使ったり，一日8問のマス目の大きな漢字プリントを使ったりした。漢字テストがほぼ百点になり，早退や欠席が減り，WISCの結果に伸びが見られた。



4 おわりに

様々な事例を通すことによって関係機関との連携を深めることができた。特に，専門機関から診断が出されることにより支援方針が立てやすくなったことや専門的なアドバイスがもたらされたことなどが成果であった。その反面，専門的なアドバイスを学校の人的な現状の中でどう生かすか，また，1対1の検査結果で得られた児童の見立てと学級，学校という集団の中での様子に違いが見られるなどの課題がある。

第2分科会 テーマ 「個々のニーズに応じた特別支援教育の充実」

実践報告①

学校と保護者及び関係機関相互の連携による個に対応した支援の充実

愛媛県新居浜市立浮島小学校 校長 石川直子

1 はじめに

新居浜市では、「特別支援教育は教育の原点」ととらえ、昨年、市教育委員会の中に発達支援課が新設された。本課では、障がいや発達課題のある子どもが、地域でともに育ち、学び、働き、暮らす支援の体制づくりに取り組み、障がいの有無にかかわらず誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合う共生社会をめざして取り組んでいる。今秋からは、「子ども発達支援センター」として市の中核的役割を担う予定である。

こうした市の体制のもと、本校では、必要な教育的支援の充実に向け、保護者や発達支援課をはじめとする関係諸機関と密接な連携を行ってきているが、今年度は、さらにその必要性を強く感じている。今回は、校長として新たな組織づくりに取り組む中での成果と課題について報告したい。

2 本校の状況

新居浜市北東に位置する本校は、瀬戸内海に面し、北に燧灘、東に垣生山を配した自然豊かな地域にある。現在、学級数9（内特別支援学級3）、全校児童数121名、教職員数14名の小規模校である。

本校には、知的障がい特別支援学級、自閉症・情緒障がい特別支援学級、肢体不自由特別支援学級の3学級が開設されており、知的障がい特別支援学級には2名（1年・3年男子各1名）、自閉症・情緒障がい特別支援学級には4名（1年女子1名、4・5・6年男子各1名）、肢体不自由特別支援学級には3名（1年男子3名）計9名が在籍している。また、通常の学級においても、ADHD、自閉症、筋ジストロフィー、左半身麻痺など、それぞれに教育的支援を必要とする児童が5名いる。

また、市の方針により、学校特別支援教育支援員として、自閉症・情緒障がい特別支援学級指導員2名、肢体不自由特別支援学級指導員1名、学校生活介助員6名、学校支援員1名が配置されている。

3 本校の取り組み

(1) 学校経営上の留意点

① 特別支援教育の位置付け

ア 本年度、肢体不自由特別支援学級が新設されたのを機に、「いのちを核とした人権・同和教育、特別支援教育の充実」を学校教育の根幹とし、教職員の意識改革を行うとともに、共通理解が深まるよう研修の充実を図る。

イ 特別支援教育への理解を含め、子どもたちを見守る温かい地域性を生かし、「家庭・地域と信頼でつながる開かれた楽しい学校」づくりに努める。

ウ 児童一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の理念を大切に、通常の学級においてもその視点から学習指導の工夫を行う。

② 校内体制の整備

- ア 特別支援教育コーディネーターは2人体制とし、全体的視点から教頭が、専門的視点から特別支援教育主任が指導・支援を行う。
- イ 校内委員会を組織し、定例会以外に必要なに応じて会を開く。
- ウ 学級担任者会をもち、重要事項の共通理解や確認の徹底を行う。
- エ 通常の学級と特別支援学級との交流及び共同学習を多くし、児童相互の交流による成長を促がすとともに、教職員間の相互理解を深める。

(2) 学校と保護者及び関係機関等との連携

① 保護者との連携

- ア 特別支援学級入級前に校長と面談を行い、保護者の希望や思いを受け止めるとともに、学校の方針等について理解を促がす。
- イ 学級担任は連絡ノートを活用し、保護者との連携に努める。

② 発達支援課との連携

- ア 保護者、発達支援課、通級指導教室担当、今治特別支援学校新居浜分校教員、校長等関係者による中学校に向けた教育相談を定期的に行う。
- イ 困り感のある保護者の希望により、巡回相談を受ける。

③ 特別支援学校との連携

- ア 特別支援学級担任の要望により、特別支援教育コーディネーターが巡回相談を計画依頼し、参観授業を行った後、指導・助言を受ける。
- イ 特別支援学校が主催する校内研修会へ参加する。

④ その他

- ア 幼稚園・保育所との連携を図る。
- イ 通園施設等関係機関との連携を図る。

(3) 個別の教育支援計画「サポートファイル『にっこ♡にこ』」の活用

(4) 成果と課題

- ① 教職員の発達障がい等に対する理解や特別支援教育の理念を生かした学習指導の工夫が広がり、すべての児童にとって効果的な教育的支援や温かい学級経営につながっている。
- ② 家庭の安定が児童の安定につながる現状から、保護者との連携を大切にしながら、些細な相談にも応じることを心掛けている。
- ③ 様々な障がい等を抱える児童について、6年間を見通した指導・支援が行えるよう、さらに研修を行うと共に、関係機関との継続した連携に努める必要がある。

4 おわりに

今春、在籍数以上の新しい教職員を迎え、新たな組織づくりの中で、日々発見、日々反省、そして一歩ずつ日々前進の毎日を送っている。また、昨年以上に、校長としての責務の大きさとその役割の多様さを実感しているところである。今回、発表の機会をいただいたことで、自身の学校経営をじっくり振り返ることができ、心から感謝している。今後の学校経営のさらなる充実に生かしていきたい。

第2分科会 テーマ 「個々のニーズに応じた特別支援教育の充実」

実践報告②

個別の指導計画・教育支援計画の作成とそれに基づく支援や指導の充実へ

高知県安芸市立井ノ口小学校 校長 信 崎 眞理子

1 はじめに

障害があるために特別な支援を必要とする児童・生徒一人一人が、その教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を受けて自立した生活を送れることは、児童・保護者の願いである。そのためには、障害のある子どもにかかわる関係者が必要な情報を共有化し、一人一人のニーズを十分に把握して適切な支援を効果的に行うことが大切である。

そこで、学校を中心として児童・生徒及び保護者の願いや思いを受け止めながら、専門機関等の協力を得て個別の指導計画や教育支援計画を作成し、実施・評価・改善しながらより効果的で質の高いきめ細かな指導や支援を途切れることなく進めていくことが求められている。

2 本校の状況

本校は児童数102名の小規模校で、学級数は1年から6年までの6学級と特別支援学級4学級（知的障害、自閉症・情緒障害、肢体不自由、難聴の4種別）の合計10学級がある。この他、通常の学級にも発達障害の診断を受けている児童やその傾向のある児童等、特別な支援を必要とする児童が複数名在籍しており、学校規模は小さいが日々学校全体での対応が必要である。教職員の配置状況は、定数13名と児童生徒支援加配教員1名で合計14名となっている。

3 本校の取り組み

(1) 校内体制整備による学校組織としての取り組み

① 特別支援教育コーディネーターの明確な位置付け

ア 学校全体の特別支援教育の推進役 …… 全体の動きの把握と支援方法の提案、実施

イ 校内委員会、個別の支援会、研修会 …… 計画、運営、記録

ウ 保護者・関係諸機関との連携 …… 窓口として各連携に関する校務の統括

エ 各学級への支援 …… 必要に応じた支援実施、記録、担任等との情報共有

② 特別支援学級間連携

ア 4学級担任会（なかよし会） …… 児童の状況等確認、指導計画の作成・見直し

③ 交流学級との連携

(2) 教職員の共通理解と指導力向上

① 研修機会の充実

② 継続した事例研実施

(3) 家庭及び関係諸機関との連携

① 家庭との連携

② 関係諸機関との連携

ア 医療・福祉機関等 …… 学校、児童及び保護者の相談・医療的支援等の充実

イ 保育所・中学校等 …… 児童を中心にした連携及び就学の段差をより低くするための取り組み

(4) 個別の指導計画・教育支援計画の作成

① 実態及びニーズの把握

ア 児童・保護者の願い把握 …… 保護者と協議する機会の設定、思いや願いを共有

イ ニーズの把握 …… これまでのデータ、児童観察による気づき及び専門機関等の診断や分析

② 個別の指導計画

ア 指導目標の設定と絞り込み …… 長期目標と短期目標

イ 作成・実施・評価・改善 …… 各学期で作成、指導実施、記録、見直しと改善

③ 個別の教育支援計画

ア 関係諸機関の専門的支援 …… 障害に応じた専門機関のアドバイスを受けて策定

イ 育ちに応じた改善と引継ぎ …… 年度ごとの見直しと中学校への適切な引継ぎ

(5) 各計画の活用に向けた授業改善

① 研究テーマ

ア 研究テーマへの位置付け …… どの子もわかる楽しい授業へ

イ 授業公開による授業研の実施 …… 児童の変容から支援の検証

② 井ノ口小学校の授業のスタンダード

(6) 成果と課題

① 成 果

ア 組織的取り組みへ …… 個の取り組みから学校全体での取り組みへと変化

イ 連携の拡大と充実 …… ニーズに応じた適時の適切な連携がより可能に

ウ 教職員の意識改革と指導力の向上 …… 児童理解の変容、授業改善、保護者との連携

② 課 題

ア 個々のニーズに応じた教育の充実 …… 教育課程の工夫改善

イ 乳幼児期からの育ちを中心にした連携の充実 …… 支援計画の改善と連携の推進

ウ 児童・保護者・地域の障害児理解

エ 連携できる関係諸機関の確保

4 おわりに

3年間で特別支援教育の取り組みが進み、教職員の特別支援教育に関する理解の深まりや指導力の向上が図られた。また児童の変容が見られるようになり、学校に対する保護者の信頼も深まってきたことを感じられるようになってきた。しかし、上記のように残された課題も多い。今後も、一人一人のニーズに応じた教育の実現をめざし、校長としてのリーダーシップを発揮しながらさらなる取り組みの充実を図っていきたいと考える。

第3分科会 テーマ 「特別支援教育の視点からの通常の学級における授業改善」
実践報告①

校長による授業参観から特別支援の体制づくりへ

香川県高松市立川添小学校 校長 六 車 健

1 はじめに

かつて、私は次のような意見を述べたことがある。

学習障害児などの個性や才能を発見し育成するため、学校の当事者がキーパーソンとなるには、一人一人をみつめ、保護者の思いを受け入れ、客観的な実態把握により、専門家チームと連携し、究極は抱きしめる体制を作ることであり、と。

その後10年間に特別支援教育へと名称が変わり、発達障害等への理解も格段に進んでいる。研究者や学級担任を中心とした教育実践も数多く発表されている。

それらを踏まえて、抱きしめる体制づくりのために、校長としてどのようなことができるかを報告してみたい。

2 本県の状況

香川県では、国や県による教職員の増配置により、平成17年度から「香川型指導體制」を実施している。これにより小学校で基本3教科、中学校で基本5教科で少人数指導を行うことができる。それにより、きめ細かな授業が可能となっている。また、小学校1・2年の36人以上の学級で複数担任制を取り入れている。

特別支援教育支援員の配置が始まった平成19年度、高松市の小・中学校長会では実態調査を行い、その結果を元に、より多くの支援員を配置するよう市教育委員会に要望した。保護者からのニーズも高まりをみせており、支援員の数は年とともに増加しつつある。

香特協も校長対象の研修会を実施している。20年度は教育ジャーナリストの品川裕香氏、21年度は徳島県特協の外磯やよひ氏、22年度は大阪府の松久真実氏から発達障害等の講演を拝聴した。

平成21年度に県下で試行されたサポートファイル「かけはし」が、今年度から本格実施されている。これは、教育、福祉、医療、保健、労働等の関係機関が連携を図りながら支援していくためのファイルであり、個別の教育支援計画の一環として学校での活用も始まっている。

3 私の取り組み

(1) 報・連・相は上司から

① 「校長メモ」で教職員にメッセージ

市教育委員会が教職員の資質向上として、教職に対する強い情熱、専門家としての確かな力量、総合的な人間力、の3つを求めている。それを受けて、週1回、終礼時を中心に発行している。

校長メモには、周知内容を視覚的に伝えて徹底するというねらいと、私の得意を生かして自己表現するという側面がある。

② 心に響く専門家の言葉

特別支援教育の研修会では、ハッとする言葉に出合う。そのキーワードを校長メモに記して、周知するとともに記憶するように心がけている。たとえば、「特別支援教育は新たな仕事ではなく、新たな視点であり、全ての子どもに役立ち、学校の課題解決につながる」（花熊暁氏）

「学習のユニバーサルデザイン（UDL）とは、LD等の子どもにはないと困る支援、どの子どもにもあると便利な支援」（佐藤慎二氏）

「叱る時は岩下志麻（低い声で断固として）、ほめる時は宝塚（ノリよく高い声で）」（東誠氏）

(2) 授業改善は校長参観から

① 学校質問紙がきっかけに

校長の授業参観を思い立ったのは、「校内の授業をほとんど見て回っていない」という反省からである。丁度その頃、京都市では校長が定期的に授業参観するというのを、本で知った。一人当たり2か月に1度の参観を目標にしたが、いざ実行してみるとなかなか折り合いがつかない。

② 双方にメリットを

じかに児童の様子を見るのが何よりの収穫である。一人一人に応じた指導のヒントが得られる。教員支援の方法も考えられる。一方、見られる教員にもメリットがあるように、授業後には個別の協議を行った。その際、手書きの授業参観メモを手渡した。

具体的には、校内研修の研究主題、授業者、児童、全般の4つの観点でのメモである。授業者の学級経営や個々の児童への配慮に学ぶことが多い。

面談における私のコメントの質が問われている。今後は、特別支援教育の観点での助言も取り入れていきたい。

(3) 成果と課題

校内委員会や特別支援教育コーディネーターなどが機能し、個別の指導計画が立てられるなど、体制が整う中で、通常の学級における授業改善に果たす校長の役割は何かと模索している。

それはきっと、一人一人の教職員に直接働きかけることではないかと考えて実践している。しかし、校長は対外的な役割も担うし行事への参加も多いため、校内での時間が限られている。また、働きかけても手ごたえを感じないこともある。

そんな時は、「変えられるのは自分だけ」という言葉を思い起こし、校長メモでは「自分を変えることで他人（児童）を変えることができる」などとメッセージを送っている。

4 おわりに

数年前に小学校長会の全国研究協議会シンポジウムで聞いた講話が、今も心に残っている。

水谷研治氏（中京大学大学院教授）が、「校長先生はたいへん偉く、影響力も大きい。経営という意味では社長さんである。いわば中小企業の社長だ。」とおっしゃった。三千人の聴衆が誇らしい気分にもまれた時、水谷氏は「でも中小企業のおやじさん方っていいますと、24時間勤務です。寝ても覚めても経営、経営であります。」と語り、校長の責任の大きさを力説された。

私の力量では、ビジョンを語れば授業改善につながっていくものではないということを実感している。究極の抱きしめる体制づくりへの道は続く。

第3分科会 テーマ 「特別支援教育の視点からの通常の学級における授業改善」
実践報告②

ユニヴァーサルデザインによる授業改善

土佐市立宇佐小学校 校長 吉本 哲男

1 はじめに

近年、「落ち着きがない」「授業に集中できない」「授業中に席を立つなど落ち着いた学習の成立が難しい」といった課題を持つ児童が少なからず見られるようになってきた。全ての子ども達が安心して、また、楽しんで生活をする事ができる学校づくりの必要を感じる日々である。

そこで、本校では授業研究を中心とした。授業のねらいや流れ、指導方法をはっきりさせ、国語科の授業を定型化すること、誰もが指導でき、どの子も安心して参加できるいわゆるユニヴァーサルデザインの授業を目指し全教職員で取り組むこととした。

2 本校の状況

児童数 177名、通常の学級7学級（2年30人学級による2学級）、特別支援学級3学級（肢体不自由、自閉症・情緒障害、知的障害）計10学級である。

3 本校の取り組み

(1) 研究テーマ

どの子も安心して参加できる指導法の研究

(2) テーマ設定の理由

過去、発達障害の児童の行動により授業が流されたり、学級が落ち着かなかつたりすることによって、学級崩壊の危機があった。その時は、ベテランの先生や男性教諭によってその危機を乗り越えようとする個人の力量に頼った対応であった。

そこで、本校でもユニヴァーサルデザインの授業を取り入れることに決め、岡山大学大学院佐藤教授と連絡を取り、17年度から年に一度だけであるが講師として学校へ迎え、指導法の研究をしてきた。あわせて、国語科の授業改善の研究にも取り組むこととした。

(3) 研究の仮説

課題を絞り込み、指導の定型化を図り、見通しのある授業を構成すれば、児童にとって誰もが参加でき、安心して受けられる授業に改善できるであろう。

(4) 研究の方法

① どの子も安心して参加できる指導方法の研究

ア ユニヴァーサルデザインの授業づくり

佐藤教授は、発達障害のある子どもが通常の学級で学ぶ時に大切にしたいことを3つ述べている。

○「時間」の環境整備 ○「空間」の環境整備 ○「人」の環境整備

② ユニヴァーサルデザインの授業に必要なこと

ア「形式」のある授業 イ「課題」のある授業 ウ「手だて」のある授業

- ③ 「ことばのユニヴァーサルデザイン」のある授業
- ④ ユニヴァーサルデザインの板書と掲示



(5) 国語科の授業形式

① 授業の定型化

授業の流れは、「つかむ」「考える」「ひろげる」「まとめる」の4段階で、表の10項目を意識して定型化を図った。

①	チャイムが鳴ったらすぐに始める。(45分間の授業を意識するため)	形式
②	何を学習するか課題を明確にする。	課題
③	見通しのある授業。(どんなことを学習するか見通せる)	手立て
④	教師の指示を簡潔かつ具体的に、そして発問は短く、わかりやすく。 ことばのユニヴァーサルデザイン	
⑤	問題を解決させるためのスモールステップ。	課題分析
⑥	学習していることが視覚的にわかる工夫。	形式
⑦	子どもたちと教材をつなぐ方法。 (自分の考えを書く。話す場を持つ・対話。話し合う場を仕組む・全体)	手立て
⑧	何を学習したかがわかる板書。(めあては青□ まとめは赤□)	形式
⑨	チャイムが鳴ったらすぐ終わる。(子どもたちに休み時間を保障する。)	形式
⑩	今まで学習してきたことがわかる掲示物の工夫。	手立て

② 研究授業についての協議

全担任が研究授業を行い、子どもと教材、子どもと子どもをつなぐ、一時間での子どもの変容に視点を当て研究協議をすることとした。

(6) 成果と課題

『関心・意欲・態度』が高まり、学校評価において、児童は「授業は分かりますか」の肯定的評価で85パーセント以上、「先生の話は分かりやすいですか」の肯定的評価は90パーセント以上となっている。

学力との関連でいえば、十分な成果を上げることができていない。それは、学習に遅れがちな児童を中心とした易しい授業が中心となり、学び合いによって学力を高める授業になりえていないためである。

4 おわりに

ユニヴァーサルデザインの授業により、基礎学力を全員につけることをねらいとしながら、学び合いにより一段高いものを目指したジャンプする発問や課題設定をする授業づくりに取り組むことが、学力の向上につながると考える。今後、学び合いのある学習へと発展させ、教師集団の一人ひとりの授業力を高め、これからも授業改善に真摯に取り組むことで、児童の学力向上につなげていきたい。

閉 会 行 事

8月27日(金) 14:50~15:10

高知会館 白鳳

1 開式のことば

第47回全国研究協議会高知大会実行副委員長 田 中 紀 子

2 あいさつ

全国特別支援学級設置学校長協会会長 河 本 眞 一

第47回全国研究協議会高知大会実行委員長 岡 則 明

3 大会宣言

第47回全国研究協議会高知大会実行委員会研究部長 西 川 淳 一

4 次期開催地代表あいさつ

長崎県特別支援学級設置校長会会長 小 林 泰 博

5 閉式のことば

第47回全国研究協議会高知大会実行副委員長 田 中 紀 子

平成22年度 全国特別支援学級設置学校長協会 第47回全国研究協議会高知大会組織

役員

全国特別支援学級設置学校長協会

会 長	河本 眞一 (東京都中野区立桃園小学校)	仲程 剛 (神奈川県横浜市立都岡小学校)
副 会 長	上原 富明 (東京都西多摩郡瑞穂町立瑞穂中学校)	浅田 謙司 (愛知県東海市立横須賀中学校)
	吉本 裕子 (東京都小平市立鈴木小学校)	西浦 正翁 (奈良県奈良市立鼓阪小学校)
	高橋 基之 (東京都豊島区立西巣鴨中学校)	西浦 正翁 (奈良県奈良市立鼓阪小学校)
	服部 純一 (埼玉県越谷市立桜井南小学校)	村田 吉弘 (広島県広島市立阿戸中学校)
	森 直樹 (北海道札幌市立東白石小学校)	岡 則明 (高知県いの町立伊野南小学校)
	小形 範雄 (青森県青森市立浪館小学校)	小林 泰博 (長崎県長崎市立矢上小学校)

実行委員会

役員会

実行委員長	岡 則明 (いの町立伊野南小学校)	
実行副委員長	吉本 哲男 (土佐市立宇佐小学校)	田中 紀子 (香南市立野市小学校)
	山中 文恵 (高知市立新堀小学校)	谷 智子 (高知市立愛宕中学校)
	濱田 有一 (高知市立十津小学校)	
事務局 長	山本 光三 (高知市立布師田小学校)	
事務局 次長	吉村 恵一 (高知市立介良小学校)	河渕 博 (高知市立大津中学校)
	社領 修作 (高知市立旭東小学校)	柴岡 和生 (日高村佐川町学校組合立加茂中学校)
	吉井 太一 (高知市立春野西小学校)	
会 計	井上 美保 (いの町立下八川小学校)	森山 晴子 (いの町立上八川小学校)

【総務部】

部 長	村田 隆 (高知市立秦小学校)	
副 部 長	前田 開 (高知市立初月小学校)	
部 員	小倉 知津 (高知市立朝倉小学校)	岡村 美佐 (いの町立長沢小学校)
	森山 晴子 (いの町立上八川小学校)	

【運営部】

部 長	吉井 太一 (高知市立春野西小学校)	
副 部 長	川上 恵三 (土佐市立高岡第一小学校)	
部 員	関根 茂雄 (南国市立三和小学校)	曾我 一仁 (高知市立行川小学校)
	佐久間信行 (高知市立浦戸小学校)	

【研究部】

部 長	西川 淳一 (高知市立江ノ口小学校)	
副 部 長	信崎眞理子 (安芸市立井ノ口小学校)	
部 員	前田 志郎 (高知市立追手前小学校)	別當 尚史 (高知市立朝倉第二小学校)
	藤本 昌司 (香南市立吉川小学校)	目代 雄一 (日高村立日下小学校)
	川崎二三雄 (高知市立三里小学校)	小堀美雅子 (安芸市立土居小学校)

【広報部】

部 長	吉村 恵一 (高知市立介良小学校)	
副 部 長	加嶋 憲治 (高知市立一宮小学校)	
部 員	有光 純一 (高知市立五台山小学校)	清藤 和代 (高知市立横浜新町小学校)
	原 道夫 (高知市立御畳瀬小学校)	

資料

全国特別支援学級設置学校長協会・全国研究協議会沿革

年月日	名 称	会 場	会 長	実行委員長
S 39. 2. 6 7	全国特殊学級設置 校校長研究協議会	都立青鳥養護学校	(世話人代表) 全日本特殊教育研究連盟 理事長 三木安正	
39.11. 9	結 成 大 会	岐阜市商工会議所	高野軍司 (目黒区立碑小)	
40.12. 5	第2回 東 京 大 会	国立教育会館	斉藤義一 (墨田区立本所中)	福島恒春 (台東区立下谷中)
41. 6.28 29	第3回 仙 台 大 会	宮城県民会館	斉藤義一 (墨田区立本所中)	河野公一 (仙台市立通町小)
42. 7. 4	第4回 東 京 大 会	国立教育会館	斉藤義一 (墨田区立本所中)	福島恒春 (台東区立下谷中)
43.11. 7	第5回 広 島 大 会	広島市立・幟町小学校 市立似島学園小学校	福島恒春 (台東区立下谷中)	斗 柁 正 (広島市立幟町小)
44. 7. 3 4	第6回 大 阪 大 会	府立青少年会館	山下利郎 (千代田区立神田小)	辻本正道 (高槻市立北大冠小)
45.11. 6 7	第7回 東 京 大 会	都立教育研究所	山下利郎 (千代田区立神田小)	山下利郎 (千代田区立神田小)
46.11.11 12	第8回 埼 玉 大 会	埼玉会館	小林幸作 (立川市立第五小)	荻島 洵 (与野市立本町小)
47.11.24 25	第9回 滋 賀 大 会	県立滋賀会館	折原岱介 (文京区立第三中)	野田村一司 (八日市市立聖徳中)
48.10.26 27	第10回 群 馬 大 会	群馬県民会館	折原岱介 (文京区立第三中)	石田袈裟一 (下仁田町立東中)
49.11. 8 9	第11回 東 京 大 会	都立教育研究所	斎藤睦雄 (豊島区立雑司谷小)	斎藤睦雄 (豊島区立雑司谷小)
50.11. 6 7	第12回 山 形 大 会	山形市民会館	斎藤睦雄 (豊島区立雑司谷小)	松原 胖 (山形市立南山形小)
51.10.26 27	第13回 大 阪 大 会	府立青少年会館	武川守成 (目黒区立第八中)	保平長太郎 (八尾市立高安中)
52.10.24 25	第14回 山 口 大 会	山口市民会館	武川守成 (目黒区立第八中)	岡 義 雄 (小野田市立小野田小)
53.10.16 17	第15回 山 梨 大 会	甲 府 市 社会教育センター	越元 實 (東久留米市立第三小)	桶川市昌 (甲府市立里垣小)
54. 9. 7 8	第16回 仙 台 大 会	仙台市民会館	山田秀雄 (渋谷区立常磐松小)	三塚清彦 (仙台市立上杉山中)
55.11.13 14	第17回 東 京 大 会	都立教育研究所	山田秀雄 (渋谷区立常磐松小)	中宿 元 (品川区立城南中)
56. 9.21 22	第18回 北 海 道 大 会	北海道自治会館	中宿 元 (品川区立城南中)	宮川 強 (札幌市立美香保小)
57.10.28 29	第19回 香 川 大 会	高松市民文化センター	渡邊義秋 (東久留米市立滝山小)	鶴川 徹 (高松市立築地小)
58. 8.25	第20回 岐 阜 大 会	大垣市文化会館	渡邊義秋 (東久留米市立滝山小)	河合直人 (大垣市立南小)
59.10.11 12	第21回 三 重 大 会	三重県教育文化会館	守矢國光 (杉並区立高井戸小)	山本 光 (津市立新町小)
60.10.31 11. 1	第22回 広 島 大 会	広島青少年センター	廣田利男 (渋谷区立幡代小)	波多野 澄 (広島市立戸坂城山小)

年月日	名 称	会 場	会 長	実行委員長
S 61.10.27 28	第23回 東 京 大 会	国 立 教 育 会 館 虎 ノ 門 ホ ー ル	植 木 信 久 (三鷹市立第一中)	高 橋 辰 久 (調布市立滝坂小)
62.10.27 28	第24回 茨 城 大 会	水 戸 市 民 会 館	高 橋 辰 久 (調布市立滝坂小)	鬼 澤 實 (石岡市立府中小)
63. 9.16 17	第25回 北 海 道 大 会	札 幌 市 サ ン プ ラ ザ	十 束 文 男 (品川区立城南中)	畠 山 奎 (札幌市立福住小)
H元. 9.28 29	第26回 青 森 大 会	お お わ に 山 荘	後 閑 巳 重 次 (練馬区立大泉中)	原 子 進 (大鰐町立鰐町小)
2.10.18 19	第27回 東 京 大 会	東 京 都 児 童 会 館	邊 見 弘 (渋谷区立幡代小)	村 上 完 司 (練馬区立光が丘三中)
3.10.18 19	第28回 滋 賀 大 会	大 津 市 滋 賀 会 館	邊 見 弘 (渋谷区立幡代小)	北 脇 三 知 也 (栗東町立葉山中)
4. 8. 5 6	第29回 岐 阜 大 会	美 濃 加 茂 市 文 化 会 館	邊 見 弘 (渋谷区立幡代小)	高 木 秀 之 (大垣市立興文小)
5. 8. 4 5	第30回 岡 山 大 会	津 山 市 文 化 セ ン タ ー	名 塚 三 雄 (日野市立七生中)	水 田 廣 治 (岡山市立桑田中)
6.10.13 14	第31回 愛 媛 大 会	道 後 プ リ ン ス ホ テ ル	名 塚 三 雄 (日野市立七生中)	富 永 安 保 (松山市立鴨川中)
7. 9.26 27	第32回 北 海 道 大 会	札 幌 サ ン プ ラ ザ	林 春 紀 (八王子市立四中)	岡 田 秀 夫 (札幌市立清田小)
8.10.17 18	第33回 福 岡 大 会	福 岡 ・ 都 ホ テ ル	橋 厚 子 (渋谷区立大和田小)	佐 藤 久 登 (大牟田市立白川小)
9. 9.25 26	第34回 岩 手 大 会	サ ン セ ー ル 盛 岡	齋 藤 弘 安 (渋谷区立松濤中)	向 田 弘 作 (盛岡市立山岸小)
10.10.29 30	第35回 栃 木 大 会	ホ テ ル ニ ュ ー イ タ ヤ	齋 藤 弘 安 (渋谷区立松濤中)	藤 田 和 子 (宇都宮市立五代小)
11.10.28 29	第36回 三 重 大 会	鳥 羽 シ ー サ イ ド ホ テ ル	川 井 得 三 (渋谷区立神南小)	小 川 隆 雄 (四日市市立高花平小)
12.10.26 27	第37回 和 歌 山 大 会	ア バ ロ ー ム 紀 の 国	川 井 得 三 (渋谷区立神南小)	坂 本 晃 清 (和歌山市立楠見中)
13. 8.23 24	第38回 山 口 大 会	湯 田 温 泉 ・ ホ テ ル か め 福	本 堂 元 規 (日野市立坂上中)	畦 森 孝 (防府市立小野小)
14. 8.22 23	第39回 徳 島 大 会	徳 島 プ リ ン ス ホ テ ル	本 堂 元 規 (日野市立坂上中)	森 野 正 治 (徳島市立助任小)
15.11.13 14	第40回 佐 賀 大 会	武 雄 セ ン チ ュ リ ー ホ テ ル	山 形 紘 (豊島区立仰高小)	和 田 富 美 子 (白石町立白石小)
16. 9.30 10. 1	第41回 北 海 道 大 会	旭 川 市 大 雪 ク リ ス タ ル ホ ー ル	山 形 紘 (豊島区立仰高小)	石 田 益 (札幌市立真駒内小)
17. 8. 4 5	第42回 宮 城 大 会	仙 台 市 青 少 年 文 化 セ ン タ ー 三 井 ア ー バ ン ホ テ ル 仙 台	芦 崎 隆 夫 (江戸川区立鹿本中)	大 槻 博 (仙台市立南材木町小)
18.11.30 12. 1	第43回 東 京 大 会	国 立 オ リ ン ピ ッ ク 記 念 青 少 年 総 合 セ ン タ ー	芦 崎 隆 夫 (江戸川区立鹿本中)	矢 口 英 明 (文京区立柳町小)
19. 8. 2 3	第44回 石 川 大 会	石 川 県 文 教 会 館 金 沢 ニ ュ ー グ ラ ン ド ホ テ ル	河 村 久 (渋谷区立富谷小)	町 出 憲 子 (金沢市立大浦小)
20. 8. 7 8	第45回 京 都 府 大 会	京 都 テ ル サ (京都府民総合交流プラザ)	瀧 島 順 一 (練馬区立大泉中)	後 野 文 雄 (舞鶴市立白糸中)
21. 8. 6 7	第46回 島 根 大 会	島 根 県 民 会 館 サ ン ラ ポ ー む ら く も	瀧 島 順 一 (練馬区立大泉中)	内 田 公 樹 (松江市立津田小)
22. 8.26 27	第47回 高 知 大 会	高 新 R K C ホ ー ル 高 知 会 館 高 知 共 済 会 館	河 本 眞 一 (中野区立桃園小)	岡 則 明 (いの町立伊野南小)

全国特別支援教育関連団体組織図

＜全特協＞
全国特別支援学級設置学校長協会
 事務局 〒151-0072
 渋谷区幡ヶ谷2-36-1
 ダイアパレス幡ヶ谷404号
 電話/FAX 03-62276-6883

各都道府県特別支援学級
 設置学校長協会
 (各都道府県特協)

各都道府県特別支援教育研究会
 会長は＜全特連＞の評議員、
 常任理事、理事となる

＜推進連盟＞
全国特別支援教育推進連盟
 事務局 〒151-0072
 渋谷区幡ヶ谷2-36-1
 ダイアパレス幡ヶ谷404号
 電話/FAX 03-62276-6883

構成団体

1. 全国特別支援学級設置学校長協会＜全特協＞
2. 全国特別支援学級設置学校長協会＜全特協＞
3. 全国盲学校PTA連合会
4. 全国聾学校PTA連合会
5. 全国特別支援学校知的障害教育学校PTA連合会
6. 全国肢体不自由養護学校PTA連合会
7. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会
8. 全日本手をつなぐ育成会
9. 全国肢体不自由児母の会連合会
10. 全国重症心身障害児(者)を守る会
11. 全国視覚障害児(者)親の会
12. 全国病弱・障害児の教育推進連合会
13. 全国聴覚障害者親の会
14. 全国聴覚障害者親の会

＜No.13の加盟団体＞

- 日本てんかん協会
- 日本自閉症協会
- 日本筋ジストロフィー協会
- 全国言語障害児をもつ親の会
- 難聴児をもつ親の会
- 全国心臓病の子供を守る会
- 全国LD親の会

＜全特連＞

＜全特連＞
全日本特別支援教育研究連盟
 事務局 〒102-0072
 千代田区九段南3-7-7
 九段南グリーンビル5F
 電話 03-5275-7559
 FAX 03-5275-1205

- 昭和24年6月、特殊学級の全国組織として結成
 (初代理事長 三木安正、後の全特協呼びかけ人)
- 現在、知的障害等発達障害の教育研究団体
 全国52の都道府県市関係団体で構成される
 団体会員制に加えて個人会員制を採る
- 機関誌「特別支援教育研究」(日本文化科学社)
- 全日本特別支援教育研究連盟全国大会
- 全国6地区の地区別大会 ● 発達障害教育セミナー等
- 3名の副理事長のうち1名は全特協代表

〔参考〕

- 日本発達障害福祉連盟加盟団体
- 全日本特別支援教育研究連盟
 - 全日本手をつなぐ育成会
 - 日本的障害者福祉協会
 - 日本発達障害学会